

全国で172の係長ポストが空席

局係長や官ポスト、事務所専門員等にも多くの空席が

組織の空洞化が進んでいる 課長・出張所長などや併任者が労働強化に

ユニオンの調査により、2014年4月現在、全国で172の係長ポストが空席になっていることが明らかになりました。昨年は73ポストでしたので、空席ポストの数は2倍以上になったこととなります。組織的には、事務所係長81ポスト・出張所係長91ポスト、職种的には、事務系95ポスト・技術系77ポストになっています。空席ポストは、係長の他専門員などや局係長・官ポストにもみられています。専門員等は係長と同様事務所81のポストが空いています。

また、これらのポストに係長などの「ラインポスト」は、組織の骨格となるポストですので、これらの

全国係長等ポスト空き実態

支部	職種	平成26年4月		専門員など
		事務所	出張所	
東北	事務	0	7	
	技術	0	3	
北陸	事務	2	18	20
	技術	8	9	9
関東	事務	0	13	4
	技術	0	3	20
中部	事務	0	4	2
	技術	1	2	7
近畿	事務	14	9	1
	技術	21	8	10
中国	事務	8	4	3
	技術	14	0	5
四国	事務	7	8	
	技術	6	2	
九州	事務	0	1	
	技術	0	0	
合計	事務	31	64	30
	技術	50	27	51

また、空席ポストを抱える課長や出張所長は係長・専門員等の業務もこなさなければなりませんから、大変な労働強化になります。一部は併任で埋まっているところもありますが、ある地整の副所長会議では「〇〇出張所の△△係長を事務所で使用」などのやりとりがされ、まるで職員を将棋の駒のように扱って平気で併任を掛けているようです。

「ラインポスト」の空きは、組織そのものの「空洞化」を意味することになり、ゆわしき事態といえます。

「係長ポスト」(専門員等も)に欠員があることはその分課長・出張所長や他の職員の労働強化になっていることは明白です。当局の都合で併任を掛けられた職員自身も、今までの以上の労働強化になります。加えて、「過去」に例を見ない大規模な災害」が頻繁に発生している現在、職場の空洞化が進めば国民の期待にも応えられなくなります。

これら本誌に国民の安全・安心を脅かす

これら欠員の原因は、言うまでもなく連年にわたる大幅な定員削減にあります。業務の実働部隊である

なんとしてでも定員削減を中止し、大幅な増員を勝ち取らなければなりません。

事務所・出張所の危機管理体制

梅雨の時期を迎え各事務所では大雨による災害対策などに負われる時期になってきました。

職場では、連年にわたる大幅な定員削減の結果職員が足りず、休祭日における災害時の体制確保に苦勞されています。一部には、「そんなの全部業者にまかせろ」との乱暴な意見もありますが、私たち国土交通省に働く職員の使命として、責任を持った対策を取ることは言うまでもないことです。

ただ、余りにも定員が削減されているなかで現在は、管理職員を中心に「命令のない」待機の指示が出て、休祭日はどこにも行けないで拘束されている実態が報告されています。

職員の奉仕の上に「危機管理体制」が成り立っているという実態です。

国土交通省に働く多くの職員は、国民の安全安心を守るという国土交通省の仕事に誇りを持ち、国民の負託に応えるため、誠心誠意奮闘する決意がありますが、行政として、職員の「奉仕」の上に体制を作り上げるのは問題です。組織として余りにも姑息です。

私たち国土交通省管理職ユニオンは「基本的に必要な要員は職員で補い危機管理体制を確立すべき。それまでは人事の工夫やOBの活用、業務発注、宿舍の確保など」が必要と考えています。また、現在の職員の奉仕の上にあぐらをかくやり方は改善し、正式に「待機命令」を出し、責任の所在を明確にし、管理職特別勤務手当の支給の対象にするなど金銭的にも保障をしていく必要があるのではないのでしょうか。

定数改善にも悪影響

ユニオンは、55歳までに誰でも6級昇格する人事の流れを要求していきますが、その際局課長・補佐・係長、事務所副所長・出張所長・課長・係長の評価替えと同時に定数改善を迫ることになりますが、そのときこれらの「ラインポスト」に欠員があれば、その評価に悪影響を及ぼす可能性があります。

